

フィクション

もしも日本の高校生が “理想のポートレート”で大学を選んだら

いよいよ日本でも共通のデータベースを使った大学情報の公表が始まる。高校生にとって活用度の高い“理想のポートレート”が存在したら、どのような大学選びができるのか、仮想の物語を通して考えてみた。

プロローグ

グローバル人材への憧れ

ここは近未来の東京。ススムは、成績は学年の真ん中ぐらい、教科の勉強よりもクラブ活動やボランティア活動に積極的な高校1年生だ。数学が苦手、自分では文系だと思っている。

ある日、父が会社の同僚を招いてホームパーティーを開いた。そこで32歳にして父の上司を務めるインド人のハーシュミーを紹介された。アメリカの大学を卒業し、転職しながら8か国に移り住んだこと、将来は世界中の人々が利用するサービスを生み出したと思っていることなどを話してくれた。「こんな人がいるんだ!」とショックを受けると同時に、憧れを抱いた。

アメリカのデータベース

学習成果や経験を比較

ススムは翌日の放課後、進路指導担当の比角先生に尋ねた。「僕はアメリカの大学に進学できますか?」「驚い

た! どうして?」。ススムは前日のことを話した。「世界で活躍したい。だから、まずはアメリカの大学に行きたいのです」「私にもそういう時期があったわ。インターネットで一緒に調べてみましょうか」。

志望校について、具体的な条件やイメージがあるわけではない。「現実的にはTOEFLやSAT、ACTなどの共通テストのスコアが求められるけど、とりあえずアメリカの大学選びのイメージをつかむために、まず、大学の基本的なデータベースを見ます。基本的に英語で書かれているので、翻訳機能も使いながら見ていきましょう」。

先生はまず、カレッジ・ナビゲーター*1にアクセスしてみせた。アメリカのほぼ全ての高等教育機関の情報が網羅されている。次にビッグフューチャー*2にアクセス。2年制か4年制か、何を学ぶかといった大学選びのプロセスごとに詳細な解説があり、選択した大学と併せてよく見られている大学が候補として表示された。ススムにとって、動画が多く使われているこ

とが印象的だった。

「最後にカレッジ・ポートレート*3を見ましょう。例えば、ハーバード大学ははっきり言って今のあなたの成績では難しいでしょう。カレッジ・ポートレートは州立大学のデータベースで、大学によって求められる学力レベルがさまざまだから、あなたにもちょうどよい大学があるはずよ」。

「何を決め手に選べばいいでしょうか」「入学時から卒業時までどれだけ成長できるかという『学習成果』を見るのはどうかしら。カレッジ・ポートレートなら主要なデータを比較できるので、入学時の学力は同じくらいなのに、卒業時には意外と差がついているといったことがわかるのよ。日本の大学では、こういう情報ってほとんど見られないでしょう。あとは『学生満足度』もポイントね。『学力が伸びるかどうか』というのは、自分にとって大切なポイントだとススムは思った。

ススムがカレッジ・ポートレートでもう一つ気になったのは、「学生の経験」という項目だった。「クラス外の教員と共に図書や理論について議論した」「異なる人種や民族の学生と共に深刻な話題をよく議論した」などの経験ができたかという質問に対する学生

の肯定率を示している。「再度、大学で学ぶ場合、同じ大学を選ぶか」という項目にも興味を覚えた。夢中で検索していると、「もう19時よ」と、比角先生から声を掛けられた。

理想のポートレート

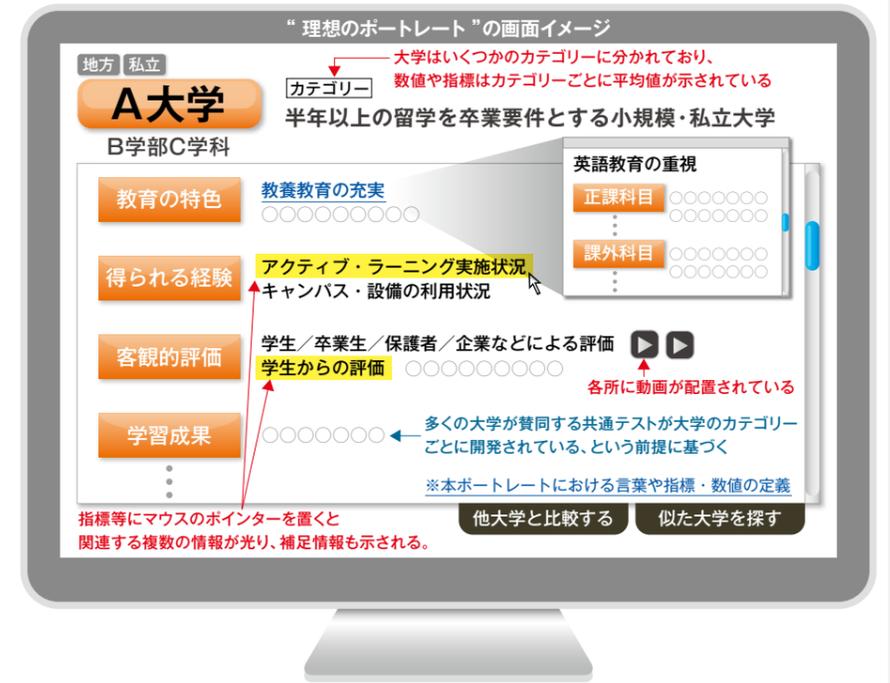
自分に合う大学選び

2年生の夏、ススムはアメリカのある州立大学をめざし、英語の学習に力を入れていた。廊下で久しぶりに比角先生に会った。「日本でも“理想のポートレート”ができたのよ」。

ススムは、進路指導室で“理想のポートレート”にアクセスした。対象は日本の全大学ということだ。学問分野など基本的な条件を入力した後、「英語による授業を重視するか」「教養教育を重視するか」「アクティブ・ラーニングを重視するか」などの質問に答えていく。専門用語にはわかりやすい解説が付けられていた。候補の大学から1つをチェックすると……。

それは、ススムが進学を考えたこともない地方の私立大学だった。この大学は、カテゴリー内での客観的評価が高い大学であることがわかった。それは、「客観的評価」の各項目を「他大学と比較する」機能で見比べたからだ。規模や学問分野が近い大学がまとめられており、同じカテゴリーの中で平均値が出されている。この平均値と個別の大学の数値・指標を比較するしくみになっていた。各大学のウェブサイトの該当ページともリンクしており、より詳細な情報が得られるようだ。

「学習成果も公表しているのね」と比角先生。大学のカテゴリーごとに実施された1年次と4年次の共通テストの結果が全学の平均点で示されている。「客観的評価」にある「学生からの評価」にカーソルを合わせると、「ア



クティブ・ラーニング実施状況」が点減した。この大学で、学生から最も評価されているのはアクティブ・ラーニングのようだ。比角先生は「多様な評価軸があるわ。いろんな角度から大学の良さを見つけることができるのね。ススムが重視したいことは何だっけ?」と問い掛けてきた。

ススムは、授業や成績評価が厳しくてもよいので、国際的に活躍できる力を身に付けたいと思っている。アクティブ・ラーニングも重視したい。ハーシュミーのような人物は、知識が豊富だけでなく、その活用方法に長けていると思うからだ。この大学は教育の特色に、「教養教育の充実」を掲げている。英語教育に重点を置き、必修の単位数が他大学よりも多い。全ての教養教育科目にグループ討議やプレゼンといったアクティブ・ラーニングの手法が取り入れられている。一定の英語力を身に付けないと、2年次への進級が認められないという、他では見られない厳しい条件を掲げていた。

おもしろい情報や機能もいくつかあった。例えば、教職員や学生が教育の特色を説明する動画が充実してい

た。そこから、大学のSNSにリンクしており、動画の登場人物に質問をすることができる。表示した大学と学びの内容などが近い大学をピックアップしてくれる機能もあるようだ。

エピローグ

納得と充実の学生生活

“理想のポートレート”との出会いから2年後、ススムは国内のある地方私立大学の国際経済学部で学んでいる。地場産業活性化の提言書作成のため、企業へのヒアリングやチームでのグループワークに忙しい。親しくなった社長からは、新たな輸出先として検討中のシンガポールの市場視察を、大学を通して打診されている。入試難易度は決して高くない大学だが、誰もそんなことを気にしていなかった。

ススムが比角先生に送ったメールには次のように記されていた。「授業はハードですが、充実した毎日を過ごしています。この大学を選んで本当によかった。将来は日本の優れた商品を世界中の人々に知ってもらえるような仕事に就きたいと思っています」。

監修・*1~3解説=山崎慎一様美林大学高等教育研究所助手 協力=お茶の水ゼミナール